

MiNT

ミント

2024年 1月 31日発行

Vol.18

みんなで決めよう「原発」国民投票 会報誌



希望と正義を胸に

樂觀するのではなく悲觀するのでもなく、現実をしつかりと見つめた上で、希望を抱き続けること。

その希望と自らが思う正義を胸に、困難に直面しても「仕方ない」ではなく「にもかかわらず」と立ち向かっていけること。

アクティビストであり続けるためには、このタフなメンタリティーが欠かせません。

鹿児島や茨城の運動に接して、考えさせられました。

(運営委員長・鹿野)



2023年7月8日、鹿児島中央駅前広場。ライブ・食・署名のイベント「beat!」に参加中の当会本村。



ニュース・いばらき原発県民投票



スイス、ジュネーブから国民投票をレポート



特集・鹿児島県民投票運動 2023

ミニト 第18号 目次

特集・鹿児島県民投票2023
5万人の思い届かず。 3

鹿児島からの寄稿 4

川内原発20年延長を問う県民投票の会

オンラインイベントレポート 7

「鹿児島からの報告」 7

ニュースと寄稿 8

いばらき原発県民投票・再チャレンジ

2023年度年次総会報告 9

スイス、ジュネーブからの報告 10

コラム・能登地震であらためて考える 12

編集後記 12

この会報は、みんなで決めよう「原発」国民投票に
会員登録してくださった方にお送りしています。
年会費未納の方はお早めに・

特集 鹿児島県民投票 2023

5万人の思い届かず。

鹿児島・川内原発運転20年延長を問う
県民投票条例を直接請求、否決される。



10月26日、県議会本会議での否決を受けてスピーチする向原事務局長（鹿児島県庁前）



8月7日、署名提出記者会見



10月4日、条例制定を本請求

川内原発20年運転延長と県民投票運動の流れ

- 2020年 7月、鹿児島県知事選挙で「川内原発20年延長については必要に応じて県民の意向を把握するため、県民投票を実施する」と公約に掲げた塩田康一氏が当選。
- 2021年 10月、九州電力が1号機について運転延長申請のための特別点検を開始（2号機は翌年2月）。
- 2022年 1月20日 県の原子力安全・避難計画等防災専門委員会、運転延長を検証する分科会を初会合。
- 10月12日 九州電力、1・2号機20年運転延長を原子力規制委員会に申請。
- 2023年 3月1日 塩田康一知事、運転期間延長に伴う県民投票について「必要に応じて実施する」との考えを県議会で改めて示す。
- 3月15日 「川内原発20年延長を問う県民投票準備会」が記者会見。
- 4月29日 「川内原発20年延長を問う県民投票の会」設立総会開催。
- 5月17日 県民投票条例制定の請求代表者証明書の交付を申請・受理。
- 5月26日 県の専門委員会、運転延長申請を「適正」とした報告書を提出。これを受けて知事は「県民投票は実施しない」と否定に転じる。
- 6月1日 署名開始。署名期間は2ヶ月、必要署名数は2万6475筆。
- 7月8日 イベント「beat!」開催、7月末日まで活発な署名活動を展開。
- 8月7日 5万筆を越える署名を40市町村の選挙管理委員会に提出。
- 10月4日 条例制定を本請求。有効署名は4万6112筆。
- 10月23日 鹿児島県議会臨時会において審議、同月26日に否決。
- 11月1日 原子力規制委員会、1・2号機の最長20年運転延長を認可。
- 12月19日 鹿児島県議会、運転延長を事実上容認（運転延長を求める陳情を採択、延長反対や議論継続を求める陳情を不採択）。
- 12月21日 知事、運転延長を容認する考えを表明。

鹿児島県の川内原発（2020年に再稼働され稼働中）は、今年7月（2号機は来年11月）に運転40年を迎える。これについて昨年、20年延長の是非を問う県民投票の直接請求運動が展開された。

この課題の県民投票はもとより現鹿児島県知事である塩田康一氏が知事選時に掲げた公約でもあり、また法定署名数の2倍近い有効署名が集まったことから実施が期待された。しかし知事は実施しない意見に転じ、県議会でも否決された。その後、規制委は運転延長を認可し、県議会および知事も容認を表明している。当会は署名期間が始まった直後の6月

と、中間イベントが開催された7月に、関西運営委員の大家、本村が鹿児島入りし、運動を取材し拡散に努めるとともに、活動メンバーと交流を深め、街頭署名やイベントに参加するなど支援を行なった。また11月には2023年総会後のオンラインイベント「鹿児島からの報告」を開催し、鹿児島島のスタッフや活動メンバーを交えて活発な議論を持った。

MINT今号では、この連携を通じて当会と交流を深めた鹿児島の県民投票の会の事務局長、事務局スタッフ、請求代表人、そして活動したスタッフに、この運動を通して得た思いを語っていただいた。

特集 鹿児島県民投票 2023

「川内原発 20 年延長を
問う県民投票の会」
のみなさんの寄稿

運動を振り返って



向原祥隆（事務局長）

川内原発 20 年延長に向けて、九州電力と県が足並みをそろえ着々と地歩を固めていく中で、残された唯一の選択肢が県民投票条例の直接請求署名運動だったでしょう。

私は、30 年近く反原発の運動にかかわって、幾度となく集会、デモ、署名運動、講演会を行ってきました。九電や県への申し入れ、公開質問状も数えきれません。最終段階にきて、同じことを繰り返しても状況を切り拓くことはできないのは明らかでした。

意外だったのは、いくつかの反対派と言われる個人や組織から、反対意見、慎重意見が出たこと。

反対派は高齢化して、昔のように動けない。有権者の 50 分の 1 のハードルを越えるのは困難。集まらなかったら、推進

派の勢いを増すばかりだ。仮に集まっても、現在の議会構成（自民、公明が圧倒的多数）を見たら否決されるのは明らか。苦勞して動くだけ無駄。集まっても、50 分の 1 ではそれだけかと足元を見られる。有権者の過半数近く集めないと議員の考えを変えられない。などなど。

週 1 回の会議を 4 カ月続けて、これしかないという意志が固まり 200 人以上が参加する設立総会にこぎつけました。

県政の重要課題であり、法に基づく署名運動だから、県内の全マスコミが無視できないはずという予測通り、こちらが動くたびに大きく報じました。事務局スタッフの奮闘と連動して、大きなうねりが作られていくことになります。

うかつだったのは、設立総会後にもかかわらず、初期に公然と署名運動に反対だと公言する人がいたこと。広がりへのスピードが、かなり妨げられました。協力する、しないは個人、組織の自由です。しかし、署名運動への反対を公言しないという約束を取り付けておくべきでした。悔やまれます。

私たちのできることは、市民を信じて運動の場を作ることだと思います。成功も、失敗もあるでしょう。しかし、理不尽な世の流れに対して、指をくわえて見ているよりも、動くことが大切だと思います。

灯火に感謝



西村亜希子（常駐）

大地震、明日は我が身。国外であればとつく

に、緊急対策として全て原発を止めることでしよう。無事を祈ります。

以下、運動を振り返ります。

なぜ県民投票運動？
鹿児島県には、知事リコールや川内原発 3 号機をめぐる市民投票運動など、相当署名数を集め本請求した市・県民投票条例案がごとく否決された苦い経験がありました。準備期間に繰り返された議論はこうです。

「一大事業なのに時間も計画もない。法定数集まらなかったらどうするのか。集まっても否決されて徒労に終わる。ほかにいい方法があるのでは？」—元事務局長・向原祥隆さんは一貫して「やらんほうが負けや。リスクはない」と言い切りました。のちに事務局実務の多くを担った松崎真琴さんと柚谷健太さんも、「やるべきです。権利を行使しましょう」と迷いがありませんでした。それで私もようやくのこめめました。「そうか、この運動は、たとえば住民投票制度が形骸化しているとしてもやるんだ。今このタ

イミングが最大のインパクトなんだ。準備不足云々は関係ない、とにかく動き勉強し、脱原発を一人ひとりに伝えていくことが真意。向き合うのは必ずしも県民投票実現ではなく、運動のプロセスで知る現実と、お互いなんだ」と。

結果と課題

「否決」には驚きませんでした。無知と非情がつくる社会の縮図を議会で見の当たりにした思いでした。5 万越えの有権者が命にかかわる大問題について心底訴えても、「国策」のはるか下の出来事にすぎず、自民党らは「黙ってやりすぎす」という現実が露呈したのです。4 度の地元・南日本新聞一面トップ報道はじめ全国紙誌や SNS 有志が広く証言してくれました。また、この無念さを体感したからこそ、運動の苦勞や尊さに思いをはせることができました。

社会、そして自分との対峙はずっと続いていきます。お上に迎合する「ヒラメ群団」に、私たち自身も追従しないとも限らない。見失わないでいられるのは、党・宗・世代・地域の内外で懸命の運動がそれぞれあるからです。が、手弁当で高齢化。時に心情も邪魔して人員も連携も細っていく。現役世代はより困窮し無関心層も厚い。せめて今一度、未来を照らす灯火を確かめ合い、感謝したいです。

結果だけではない



杉谷健太（請求代表）

署名を集めても
県民投票は実現せ
ず、12月下旬、塩

田康一知事は川内原発の20年運転延長を「了承」した。それは事実。しかし外形的事実からはわからない効果もあったのではないかと思う。以下、二点挙げる。

まずは、県民世論を喚起できたこと。

署名期間の2ヶ月間、私は鹿児島市中部の街頭で毎日署名を集めた。特に印象的だったのは、比較的若い人が署名に応じてくれたことだ。20年延長を知らない人もいたが、「みんなで決めよう」と話をする、署名してくれた。説明を聞いた上で、署名しない人もいたが、少なくとも考えてもらうことはできた。チラシ配布だけでは、対話は難しかっただろう。

二点目は、知事、県議会の姿勢を可視化できたこと。塩田知事是否定的な意見を付けて議会に条例案を上程し、自民・公明は反対した。県議会閉会后、知り合いでない人からも「知事はダメだ」という声を聞いた。この運動がなければ、知事や自民・公明党県議らが県民をバカにしているということを明らかにすることはできなかった。これは今後の選挙の投

票行動につながるのではないだろうか。

もちろん、署名活動は簡単ではなかった。2ヶ月なら毎日街頭で署名を集めるのは造作ないと思っていたが、想像以上に大変だった。声を掛けても署名してくれないことは想定していたが、毎日となると気持ちが萎えることも。「そんなことやつても意味ない」と言われた時には、怒りのあまり、ペンを道路に投げつけたこともあった。途中からは一緒に署名を集めてくれる人もおり、気が楽にはなった。毎日街頭に立つのであれば、誰かと一緒に活動した方が良さだろう。

自民が圧倒的多数を占める議会で、住民投票を実現するのはハードルが高い。ただ、世論を喚起し、議員の姿勢を可視化するという点では、住民投票条例制定を求める署名活動以上に効果的な運動はないと思う。

小さな舟を漕ぐ



鯨島亮二（受任者）

あるあるかもしれないが、この手の市民運動

をしていると、ありがたいアドバイスと
いうか、お説教をいただく。

「市民運動はアップデートすべき」と

も言われた。

だけど、実際に4万6112筆の署名を集めたのは旧態依然とした市民運動だった。否決されたとは言え、県政の腐敗を晒したことは意義があった。

運動を担ったのは70代前後の世代（ここでは仮に「市民運動世代」と呼称する）。アップデートせよなんて無理な注文だし、失礼な話だ。変わらないといけないのは50代以下の私たちではないか。

私は現在46歳。2008年から川内原発の反対運動を始めた。子ども3人を抱え、零細出版社の経営に必死だ。それでも目一杯活動した。友人と音楽と食のイベントも敢行した。デザイナーに告知画像を作ってもらって、発信し続けた。街頭にも何度も立った。一定の効果はあったのだろう。だけど力及ばずだった。

市民運動世代は、人口が多くて、時間もあり、資産もあり、戦後民主主義教育を通じてきて政治への関心が高い（私たちと比較してだが）。まだがんばってもらうしかない（ほんとすいません）。彼らと私たちがうまく噛み合えば変えられる。相手にあしろこうしろではなく、お互いを尊重して、それぞれのやり方でもいい。

豪華客船ではなく、無数の小舟がわらわらと発生して同じ方向へ進撃するイメージ。時々はお互いが持っているもの



署名活動に若い世代も参加した（鹿児島市内）

を交換し合い、緩やかにつながる。自発的な漕ぎ手がrow and rowだ。船頭は多ければ多いほどいい。

希望はある。県民投票運動には20代の学生が数人参加してくれた。ほんまものの若手の登場。眩しかった。とある人は、県民投票を見ていてもたってもいられなくなると、映画「センキョナンデス」の上映会を開催する。

50代以下で漕ぎ出す人が現状の2倍になったら、鹿児島島の風景は変わる。「無理でしょ!」と思われるかもしれないが、いかにせん母数が少ないので、なんとかなる、気がする。市民運動世代がなんとかまだお元気なこの5年10年が勝負だ。

裏金まみれの方々に原発を動かされても誰も安心できない。愛と笑いを忘れずに、またここからはじめたい。

特集 鹿児島県民投票 2023

「川内原発 20 年延長を
問う県民投票の会」
のみなさんの寄稿

未来をあきらめない



永谷玲葉奈（受任者）

署名集めや、署名活動を広げるイベントの運営に携わっていた永谷玲葉奈です。

私たちが生きているこの鹿児島を、豊かなまま次の時代を生きた子供たちに引き渡すために私にはなにができるのでしょうか。

自問自答の日々でしたが、ちょうどその時県民投票のための署名集めの話が舞い込みました。母の一番の友人、西村亜希子さんからの直接のオファーでした。

お恥ずかしながら、署名が始まってから最初の 1 ヶ月近く、私は署名簿を一冊も埋められずにいました。古くから付き合いのある友人や学校で会う親しい友達にすら、署名の呼び掛けをする勇気がなかったのです。好奇の目を向けられるの

では……。ひよっとしたら避けられるようになってしまおうのではないか……。などと、薄ら恐怖心があつたのです。

しかし、「beat!」（署名活動を広く知ってもらうための音楽、グルメ、トーク満載のイベント）の運営メンバーとして声をかけて頂いてから、私の気持ちは一変しました。周りには必死に日常と向き合いながらも、精一杯日々署名集めに奔走する仲間がいました。それを見た時が、今の私に出来る最大限をこの夏で出し切ろうと決意した瞬間でした。

母娘で知り合いの家を回り、私自身は週末の時間を使って街頭署名に立ちました。学校でも周知に力を入れて学生たちや先生方に協力を呼びかけました。署名の期間が終わった 8 月、5 万 2 9 0 筆という数に驚き、涙が出ました。私たちの必死の努力が報われた瞬間だったように思います。

しかし惜しくも県民投票の実施は叶わず、私はこの自民党政権の蔓延る鹿児島を恨めしく思いました。

それでも「未来をあきらめない」。私の意思はただこの一言です。明日を生きた子供たちのために、今日私ができることは……？

あやさん大音さん、応援と御協力、本にありがとうございました。これから頑張るぞー！

声を届ける役割



永谷紗代子（受任者）

署名活動に「親子で参加していい」母の方、永谷紗代子です。（今や娘の方が県民投票について新聞やテレビの取材を受けて有名に。）友人である西村亜希子さんが事務局となったことが参加のきっかけです。

私は民医連の生協病院で看護師をしていたこともあり、署名活動には慣れていました。しかし、今回の県民投票は自身が署名してもらうおひとりおひとりに声をかけお願いしなければならず、特別な場合を除いて代筆もできず、しかも鹿児島市在住である私は鹿児島市の方にしか書いてもらえないという様々な制約を課されたハードルの高い署名であったと感じます。

1 筆たりとも無駄にしたいくないという思いから、思いつく限りの方のお宅に行きました。みんなで決めるための署名であることを説明しお願いしていくと、断られるケースは稀であり、しかも署名しなくてもできないという方もいました。街中や学校で多くの方に署名をお願いしている娘と違い、自宅を訪ねていく私のやり方は一見非効率かもしれません。し

かし、確実に署名をいただける方法であり、最も重要なことは、家から容易に出かけることのできない方々から署名をいただけたということです。介護が必要な方や家族の介護している方、障害があり一人では出かけることのできない方、引きこもりで外に出れない方、聾啞者で代筆者を必要としている方、妊娠や出産で出かける頻度が減っている方など広く署名にご協力いただけました。

声を届ける役割は、今の自分につながっていることだと感じます。また署名を通してお名前しか知らなかった方に総会や集会でお会いすることができ、仲間がたくさんいると実感できたことも大きな力になりました。若者主体のイベント「beat!」は特に多くの人々を勇気づけたと思いますし、勢いに乗る契機になったと思います。

県民投票は否決されましたが、まだまだ終わりではありません。これからがはじまりです。



beat! 会場で配布されたうちわ

11月25日に開催された、みんなで決めよう「原発」国民投票2023年度年次総会（オンライン開催）後のイベントでは、2023年6月より署名集めが開始された「川内原発20年延長を問う県民投票」の直接請求活動で、事務局常駐された西村亜希子さんにお話をお聞きしました。

イベントには、鹿児島で活動に参加されていた方々や、県議・市議の方も参加してくださいました。

会は、2022年12月ごろから準備会を開き茨城県民投票の事務局メンバーからのアドバイスや、記録書籍を参考にしながら準備を進め、主に鹿児島での脱原発活動や川内原発訴訟グループの方々の協力があり運動が立ち上がりました。しかし過去に薩摩川内市で行われた市民投票条例請求活動経験者からは当時「難しいんじゃないか」という意見もでたとのこと。でも、やると決まった

からには覚悟を決めて署名集めに協力した、とおっしゃっていたのが印象的でした。

直接請求に必要な法定署名数2万6000筆に対して5万290筆集まり、本請求した際の有効署名数は4万6112筆。2か月の署名期間の

しょう。

10月26日の本会議では3000人近くが議会傍聴へ。51名の県議会議員のうち11名のみ賛成で否決となりました。自民・公明議員は反対討論すらなく、5万人以上の県民の意見に向き合っていない姿勢が明らかになりました。



開催中のスクリーンショット

オンラインイベント 鹿児島からの報告 川内原発20年稼働延長の是非を問う 県民投票のための直接請求活動



この活動の立ち上げ時にさまざまな意見が出た時、事務局長の向原さんからの「やってマイナスになることは何もない」という言葉があったから納得して前に進むことができた、という話がとても印象的でした。

私は2度、現地に行って活動に参加したのですが、2か

月間の奮闘を大阪から応援しながら、この活動の残したインパクトは大きく、県民の尊い意思を確実に歴史に刻んでいると感じました。

鹿児島のみなさん、ありがとうございました。

（本村）



音楽と食のイベント“beat!”、県民投票に賛同するミュージシャンが多数参加



beat! 会場の署名ブース（7月8日、鹿児島中央駅前広場）

News 【茨城】

「いばらき原発県民投票の会」 今年、2度目の直接請求へ

2020年6月に「いばらき原発県民投票の会」は東海第二原発の再稼働の是非を問う県民投票条例案の直接請求を実現した。残念ながら茨城県議会では否決されたが、同会は再度の直接請求に向けて準備を進め、「シール投票キャラバン」で県内を回るなど広報にも精力的に取り組んできた。そしていよいよ今年（4月以降）2度目の直接請求に向けて署名活動が開始される予定である。



シール投票キャラバンを県内各市の街頭で実施。



「話そう、選ぼう、いばらきの未来!」
いばらき原発県民投票の会 公式サイト
<https://ibarakitohyo.net/>

当会は2020年の直接請求の際にも運動を支援・取材し拡散に努めてきた。このMINTでも数度にわたって紹介している。今号では茨城の会の石川雷太氏より当会会員に向けた寄稿をいただいた。
なお3月9日には水戸にてプレイベント「いばらき原発県民投票の会・音楽フェス」が企画されている。当会からも「みんなで決めよう原発県民投票の歌」を歌う「スカピン（本村、大音）」が参加し、演奏する予定となっている。

すべての人が普通に意思表示をするようになれば、確実に世界はより良いものへと変化するでしょう。それが本来の民主主義の役割であり可能性です。現在全国の原発では着々と再稼働への準備が進められています。これは私たち自身が、自分たちの声は小さく政治の現場へは届かないと諦め、意思表示をおろそかにしてきた結果でもあります。しかし私たちに様々なツールが用意されています。原発県民投票条例の制定のための住民直接請求もそのひとつです。

意思表示しようぜ!

原発県民投票へ2度目のチャレンジ

いばらき原発県民投票の会
広報担当：石川雷太

の実現、そして「私たち市民は諦めない!」という更なるインパクトを政治の現場に与えるために、2度目の署名活動を行います。時期は東海第二原発の安全工事了了に合わせて決定、早くて4月頃から始める予定です。

私たちの運動は茨城県を舞台とした運動ですが、茨城県だけを問題にするものではありません。私たちの試みを見ていただくことで、「私たちにもできるんだ!」と、多くの方々が希望と勇気を持つことにつながれば嬉しく思います。そして、すべての人が自分の住むこの世界・社会の主人公であるという当たり前のことを実感できる社会になってほしい、それが私たちのヴィジョン、願いでもあります。

「いばらき原発県民投票の会」では市民有志とともに、8万6703筆の署名を集め、2020年6月に「直接請求」を実現しました。残念ながら県議会では否決され「県民投票」の実現には至りませんでした。しかしこのことにより「民意を無視する県議会」が可視化され、民主主義の健全化のための障壁がどこにあるのが明確になりました。今年、いばらき原発県民投票の会では、直接請求の実現、県民投票

あります。茨城県内の皆様はもとより、日本全国の皆様に、ネットでの情宣や口コミ、チラシ配布などの周知活動、受任者としての活動協力、署名あつめ、活動資金の寄付等、是非ともご協力、お力添えをいただきましたら幸いです。

2023年度年次総会報告

11月25日、オンラインにて2023年度年次総会を開催した。総会前にハガキ、メール、電話等で会員ひとりひとりと連絡をとり、丁寧な開催準備を行って当日を迎えた。有効会員は138人、総会出席11人、委任確認77人となり、総会成立となった。

報告事項として、①2022年度活動報告、②2022年度決算報告、監査報告、審議事項として、①2023年度活動方針案、②2023年度予算案、③人事案が提案され、審議を経てすべての議案が可決された。

2022年度活動報告

①2022年12月20日拡大運営委員会にて年度をスタート

②鹿児島県「川内原発20年延長を問う県民投票」(署名期間…2023年6月7月)直接請求運動の現地取材・支援、情報拡散

③会報MINT17号発行

④月1回の運営委員会をオンライン開催し、活動の確認、各地の状況などを共有

以上を行ってきたことが報告された。「川内原発20年延長を問う県民投票条例」は法定必要署名数の2倍近い有効署名

名(約4万6000筆)を集め10月4日に直接請求、10月26日に県議会会で否決された。当会運営委員2人が現地入りし、積極的な交流と意見交換を行い、その中から生まれた音楽イベントを盛り上げて若い世代の活動参加を支援した。

総会後のイベントでは、現地から多数参加があり、当会の活動がそのまま直接請求運動活発化の場となっていることが実感された。会計報告では会費納入の呼びかけの弱さが指摘され、活動の意義を直接伝え会員継続・会費納入のモチベーションを高めることについて議論が交わされた。

2023年度活動方針

2024年も引き続き

①原発問題その他の課題について、各自自治体における住民投票実施の支援
②諮問型「原発」国民投票制度実現のため、国会議員等へのはたらきかけ
③世論を盛り上げる周知活動

以上を行っていくことで採決した。また、当会の活動は長期化しており、運営委員・監査委員の様々なライフステージ変化もあるが、活動のかたちを様々に変化させ、関わり合いながら継続していくことを確認した。

第3号議案 2023年度人事案

○運営委員長 鹿野隆行／神奈川

○副運営委員長

(会計) 中村映子／東京

(総務) 井奥雅樹／兵庫

(企画・広報) 大音智史／大阪

(地域間調整) 森恭子／兵庫

○会計監査 砂子啓子

○地域運営委員

北海道 山下元信

埼玉 竹内和泉、向井絵里

東京 石崎大望

神奈川 鹿野隆行(運営委員長兼任)

静岡 中村英一

関西(奈良、大阪、兵庫、京都、和歌山、滋賀)

本村綾／大阪、山崎憲成／大阪

愛媛 有友正本

○顧問 宮台真司、杉田敦

*事務局 鳥海幸恵／神奈川





街中に沢山あった直接投票広告の掲示板



レマン湖の噴水

Switzerland Report

Vol.1



スイス、ジュネーブ からの報告

運営委員長 鹿野隆行

直接民主主義の本場と言えば、スイスです。そんなスイスのジュネーブに、昨年の4月から暮しています。日本で勤めていた会社のヨーロッパ法人に、転籍になったためです。

ジュネーブでの暮らし

スイスに来てから9か月以上が経過しましたが、未だに新しい環境に適合しようとする状況が続いています。スイスには公用語が4つあり、ドイツ語地域が約62%、フランス語地域が約23%、イタリア語地域が約8%、ロマンシュ語地域が約0.5%となっています。大まかに首都のチューリッヒやベルンなど東から中央にかけてのドイツに近い地域がドイツ語圏で、西のフランスに近い地域がフランス語圏、南のイタリアに隣接する地域がイタリア語圏です。ジュネーブで主に使われている言葉はフランス語です。そのため、私の目下の課題は、フランス語を学ぶことです。英語だけでも生活はできるのですが、フランス語が分からないと地

域のニュースも理解できないし、コミュニティに入っていくこともできません。

ジュネーブ州の人口は約50万人、ジュネーブ市の人口は約20万人と、都市としての規模は非常に小さいです。それでも、ジュネーブは国連欧州本部をはじめとした多数の国際機関、NGOの本拠になっており、国際都市として異彩を放っています。スイス全体でも人口に占める約4分の1が外国人なのですが、ジュネーブに至っては外国人居住者の割合が4割ほどを占めています。そのため、いろいろな国のレストランがありますし、日本食レストランや日本食ショップもあり、食べ物には困りません。街のシンボルはレマン湖、特にレマン湖内の大きな噴水です。夏になるとレマン湖畔の「ビーチ」には、海水浴ならず「湖水浴」を楽しむ人で賑わいます。

来てすぐに体験した国民投票

スイスに来てから約2か月後の6月18日には、国民投票・住民投票が実施されました。国民投票の議題は①多国籍企業の最低法人税率に関する憲法改正案、②2050年までの気候中立目指す環境新法、③COVID19法の3つで、何れも投票の結果賛成多数

で可決されています。このときには、スイス全体の国民投票、ジュネーブ州の州民投票、ジュネーブ市の市民投票が同時に行われました。

ジュネーブの街中にポスター掲示板があり、普段はコンサートや演劇などのイベントのポスターが張られているのですが、直接投票の前にはそのうちの多数が各陣営のYES/NOを訴えるポスターに変わります。3つの異なるレベルの住民投票が同時に行われるため議題の合計数は膨大なものとなり、多種多様なポスターが掲示されていました。正直私には、どれがどのレベルの投票のポスターなのかも分かりにくかったです。また、郵便受けには幾つかのチラシが入ってきていましたし、新聞には広告が掲載されていました。

日本とあまりに違う選挙風景

4月には州レベルの選挙、10月には連邦議会選挙もありました。広場や公園で各政党が「選挙ブース」を出しており、何度か出くわしました。日本と大きく違うのは、この「選挙ブース」で軽食やワインが提供されることです。私も選挙権は無いのですが、少しつまみ食いさせてもらいました。アコーディオンなどの楽器で音楽を奏でて場を盛り上げているブースもあり



緑の党による YES を訴える路面電車広告



社会民主党の選挙ブース



国民党の NO を呼びかける電子広告（ジュネーブ駅）

ました。

しかし、この選挙ブースとポスター掲示以外には、ジュネーブの街中で選挙を感じることはありません。街宣カーが走っていることはないし、街頭で演説をする姿を見かけることもありません。なお、郵便ポストに政党のパンフレットはいくつか入っていました。日本とはあまりにも違うスイスの選挙の在り方については、これから学んでいきたいと思っています。

3 月にも行なわれる国民投票

今回の国民投票・住民投票の投票日は、2024 年の 3 月 3 日です。議題は、① 毎月の年金支給に加えて「13 か月目」の支給を加える、② 定年を 65 歳から 66 歳まで引き上げて、その後も平均寿命の延びに合わせて引き上げる、の 2 つです。また今年中に④ 年金積立残高に対する総支給額を定める変換率、⑤ 医療費の伸びが給与の伸びを 20% 以上上回った場合の政府の義務、⑥ 医療保険料を収入の 10% に抑える、⑦ ワクチン接種を義務付けない、といった議題での国民投票が予定されています。

スイスで働く私は今、スイス人と同じようにスイスで年金を積み立て、スイスの医療保険に加入しています。そ

のため①⑤の議題は、もしスイスに長い間住むのであれば、直接的に私の生活にも影響を与えます。⑤の議題もスイス人・外国人に関わらず影響がある議題です。しかし残念ながら、スイス住民の約 4 分の 1 をも占める他の外国人滞在者と同様に、私に国民投票の投票権はありません（なお、住民投票については外国人に選挙権を付与している自治体もあります）。それでも、自分が住む地域、国で、自分が身近に感じる課題で定期的に住民投票・国民投票が行われ、それを目の当たりにする機会があるのは、貴重なことだと思っています。3 月の直接投票については、しっかりと状況をフォローして、みなさんにまたレポートしたいと思っています。

アイルランド国民投票も取材

また、スイスには地の利があります。スイスはフランス、イタリア、ドイツに隣接しており、ヨーロッパ各地に赴くには最適な国の 1 つです。今年の 3 月 8 日にはアイルランドで国民投票が実施されるのですが、ジュネーブからダブリンまでは飛行機で乗換えなしなら 2 時間強しか掛かりません。せっかくの機会なので、現地に足を運んでみたいと思っています。なお投

票の議題は、憲法に記載されている、① 家族の定義の変更、② 女性の家庭での役割についての言及の削除、の二つです。

運営委員長という任を預かりながら、日本に滞在できていないことには心苦しい気持ちがあります。住民投票運動のリモート支援やイベントへのリモート参加はできるものの、やはりリアルで活動できないことは大きな制約です。その代わりになるものではありませんが、スイス、およびヨーロッパで直接民主主義の息吹を存分に受けて、その在り方を学ぶことで、会の活動に貢献したいと思っています。



ジュネーブ市内でチーズフォンデュを食べる筆者

能登地震であらためて考える 地震大国において原発と共存する ということ

元日を襲った能登半島地震から約1か月。死者232人、重傷者263人、全壊家屋60棟、半壊948棟を数え、今も1万人超の人々が避難生活を送る。(1月19日現在内閣府非常災害対策本部報道資料)。被災された皆さまへ、心からお見舞いを申し上げます。

北陸電力志賀原発が所在する石川県羽咋郡志賀町は、最大震度7(マグニチュード7.6)を記録した。1号炉(1993年稼働)、2号炉(2005年稼働)とも運転停止中であつたが、外部電源供給に必要な主変圧器の故障、電源1系統が使用不可、周辺116か所のモニタリングポストのうち18か所のデータ取得が不能となるなど、原子力安全管理上の甚大な被害が報告されている。万が一深刻な原子力災害が生じたとしたらどうだったろうか。家屋被害の深刻さをみれば、規制委員会指針が示す近隣住民の屋内退避は不可能、交通網の状況をみれば、各自治体の避難計画は容易に破綻したことが予測される。

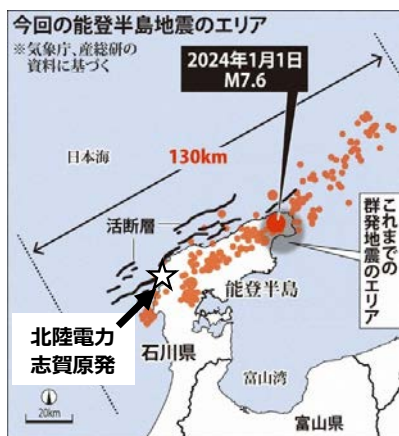
志賀原発は建設当初から直下・近辺の断層が問題になっていた。金沢地裁が2006年に下した2号機運転差止判決

は民事訴訟において原発運転差止めを命じる初判決として注目された。判決理由は「周辺住民の許容限度を超える放射能被ばくの具体的可能性がある」というものだった。

2016年には有識者会合が敷地直下・周辺の断層を『活断層にあたる』と結論づけた。昨年3月、原子力規制委員会は「敷地内の断層は活断層ではない」と有識者判断を覆し、再稼働を急いでいた矢先の大地震である。北陸電力は再稼働に向け「最大1000ガルの地震に耐えられる耐震補強」の方針を示していたが、志賀町ではこの地震で最大加速度2826ガルを記録した。

地震大国で原発と共存する未来を選択するのか、その覚悟と判断は、国民の総意を確認する直接民主主義にゆだねるべきではないだろうか。

(当会事務局 鳥海幸恵)



毎日新聞作成図より作成

編集後記



黒豚、ラーメン、きびなご、しろくま、貝汁、芋焼酎・・・鹿児島は美味かった。取材・応援で各地に行くとき現地グルメを楽しめます。八幡浜ではじゃこ天とちゃんぽん、仙台ではせり鍋と牛タン、米子では白イカに大山どり。いずれの地も魚が美味しい！肉も野菜も果物も美味い！そして海と山の美しい風景。なんでだろうと考えて気付く。そうか、そういうところにつくられるんですね原発って。舌鼓を打ちながら都市と地方、国と自治体の関係を考えてしまおうでした。(大音)

今回、鹿児島の記事を担当しました。署名期間中の折り返しとなるイベント「beat!」は、住民投票を求める趣旨の理想的なイベントでした。「みんなで決める」を合言葉に、出店者、出演者全員が趣旨に沿ったパフォーマンスをされていました。私には今までできなかったものが具現化されていて感動しました。会でもいつかぜひ実現したいです。(本村)

みんなで決めよう「原発」国民投票 会報誌

MINT 第18号 ミント 第18号
2024年1月31日 発行

発行：みんなで決めよう「原発」国民投票
〒211-0004 川崎市中原区新丸子東 3-1100-12
かわさき市民活動センター レターケース No.36
e-mail: info@gkokumintohyo.com
web: http://gkokumintohyo.com

平穏な生活は多くの人々の献身の上に築かれた奇跡の連なりで、ある時容易に破綻するのだと気付かされた年始。今日が昨日の続きとは限らない。年始の抱負は果たされないのが相場だが、毎時その時を創作しすべきことをし続ける日々を送りたい。いまさらながら、しようと思ったことを全てをTODOアプリに外部化し、リマインドさせる生活を始めた。この原稿が約束より遅れたのは、アプリに入れ忘れたからで、いつもの私だから、ではない。(とりうみ)